Leaf. 6

アクティブ・ラーニング ノ ススメ　in　かがわ

アクティブ・ラーニングで学びを価値付けよう！

1　学習評価の充実を目指す！
2　学びの過程を評価する！
3　伸びを実感する振り返りを大切にする！

KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center

1　学習評価の充実を目指す！

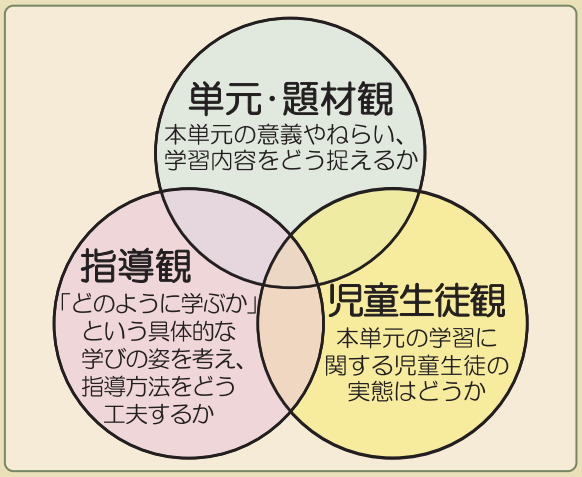
児童生徒が自らの学びを振り返って、次の学びに向かうことができるように、**学習評価と、アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善は、一貫性をもった形で改善をしていく**ことが求められています。

「どのように学ぶか」という視点からの学習・指導方法の改善

中教審答申※において、学びの成果として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を身に付けていくことが求められています。

そこで教師は、児童生徒が主体的・対話的に、深く学んでいく**「学びの質」**に着目して、授業改善の取組を活性化させていくことが大切です。

そのために教師は、単元・題材観、児童生徒観を踏まえて、**児童生徒が「どのように学ぶか」という具体的な学びの姿**を考え、指導方法を工夫していく必要があります。



※ 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）

学ぶ意欲につながる学習評価　～指導と評価の一体化～

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。

教師は、児童生徒にどのような力が身に付いたかといった学習成果を的確に捉えたうえで、指導の改善を図ります。その際、**児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かう**ことができるように工夫しましょう。

このように、**「指導と評価の一体化」**を図ったアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善が欠かせません。

教師の評価と支援

- 日ごろから、児童生徒が自らの思考の過程等をノートなどに残しておけるようにしましょう。
- 意思的な側面※を捉えて評価しましょう。提出物への評価のコメントは、児童生徒が自身の学びを実感することにつながります。

そこで、教師は総括的な評価とともに、論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作等によって、学習過程における**形成的な評価**を行うことが大切です。

※ 意思的な側面：児童生徒が自ら学習の目標をもち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうか

2　学びの過程を評価する！

求められる資質・能力を育むためには、ねらいの達成に向けて、**児童生徒がどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかを捉えていくこと**が大切です。そのため教師は、単元・題材で育みたい力を明確にするとともに、どの場面でどのように評価するかについて想定しておくことが必要となります。

学びの過程を可視化し、多面的・多角的に評価する！

アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくりでは、「どのように学ぶか」が重要となるため、授業の最終場面に行われる総括的な評価だけでは、単なる「できた」という評価にとどまります。形成的な評価として、児童生徒の学びの過程を可視化し、**その学びを多面的・多角的に捉えることで、「できた」の質的な評価をすることができる**のです。

教師には、そのような児童生徒の学びの質を捉えることのできる目を培っていくことが求められています。

教師が渡した手紙をもとに、児童が書き表した内容から気付きを読み取る。
【坂出市立坂出小学校】

授業の終末で、学んだ内容を教師が別の場面に置き換えて提示することによって、児童がどのように内容を活用し解決するかを見取る。
【高松市立牟礼小学校】

自分の考えを役割演技で表現する場を設定することによって、生徒の考えの変容を見取る。
【観音寺市立観音寺中学校】

他のグループの考えを自由に見て回る時間を通して、生徒がつぶやく新たな気付きを取り上げる。
【高松市立協和中学校】

多様な考えを共有することによって、最善の解決方法を見いだした生徒の気付きを認め、他の生徒に紹介する。
【香川県立高松北高等学校】

授業の始めに、ゴール像を共有することによって、そのポイントに基づいて行われる生徒の発表を称賛する。
【香川県立丸亀高等学校】

児童生徒の学びを質的に捉え、授業改善につなぐ！

学習評価は、一単位時間の学習内容に関する評価とともに、児童生徒自身が学びに向かう視点や教師自身の授業改善の視点にもつながります。そのため「何を、誰が、いつ、どのように」評価するかについて、本時や単元に具体的に位置付け、学びの質を高める活動として充実させていきましょう。

3　伸びを実感する振り返りを大切にする！

児童生徒が自分の伸びを最も実感するのは、振り返りの場面です。学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付けた資質・能力を自覚したりできるように児童生徒自身による評価活動を充実させていきましょう。

評価活動を学習活動の一つとして位置付ける！

アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくりでは、**自己評価**により自らの学習状況を客観的に捉え、伸びや改善点を自覚する場を設定することで、学びを深め、主体的に判断や行動をし、学びに向かう力が育まれていきます。そこで、**教科等の特質に応じた評価活動を学習活動の一つとして位置付ける**ことによって、学びの質の高まりにつながるといえます。

自己評価は、**学習内容に関する視点**と**学びの過程に関する視点**の２つの視点から振り返ります。その際、教師は、児童生徒が「何をどのように振り返るか」についての視点をもてるよう対話的に関わりましょう。また、見通しの段階で課題に対する予想や仮説を立てておくことで、児童生徒は、学びの過程での気付きや自分の考えの変容を自覚することができます。

〈振り返るための視点の例〉

学習内容に関する視点	学びの過程に関する視点
○知識・技能の定着 ○既習事項や経験との関連性 ○実社会や実生活への活用	○自己の学びに対する変容や成長 ○課題の解決に役立った事柄や方法 ○新たな疑問や課題へのつながり

相互評価による有用感の高まりが、次の学びへ！

振り返りの場面では、**相互評価できる場**を設定することで、学ぶ内容、仲間と共に学ぶことの価値が明確になります。他者からの評価によって、自分では気付かなかった自分の考えや、解決過程のよさにも気付くでしょう。

このような相互評価を通して学びの有用感が高まることにより、自己に対する自信が芽生え、資質・能力の育成へとつながります。

また、振り返りの場面の充実は、学んだことを他の場面で活用しようとしたり、新たな問いを生み出したりするなど、次の学びへの意欲となり、自ら問題解決に取り組もうとする態度を育てます。

仲間のアドバイスにより、自分の表現が高まったことを実感している。

【綾川町立綾上小学校】

仲間の考えのよさに気付き、自分の考えに生かそうとしている。

【高松市立十河小学校】

アクティブ・ラーニングの参考資料を香川県教育センターＷｅｂサイトに掲載していますのでご参照ください。また、研究についてのご相談等がありましたら、香川県教育センター教育研究課までご連絡ください。

KEC
〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
ＴＥＬ　087-813-0931（教育研究課 直通）
ＦＡＸ　087-881-3270
http：//www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/

平成２９年２月